

## 令和2年度 文書館資料叢書 17

### 『福井藩士履歴9 新番格以下2 ヲ～ヨ』の発刊・配布について

#### 1 刊行の目的

文書館資料叢書は、福井県の歴史解明において重要で、かつ一般利用者の閲覧要望が多い資料を活字化し解説等を加えて刊行してきた。これまで士分と呼ばれた上級～中級藩士の家臣の人事履歴（藩士履歴 1～6）、幕末期に新たに召しだされた藩士の子弟の人事履歴（藩士履歴 7 子弟輩）を刊行した。それらに引き続く形で令和元年度以降、下級家臣団約 500 家（明治以降のいわゆる卒身分に相当する藩士の家系）の人事履歴を刊行しており、本巻はその 2 冊目である。

#### 2 おもな掲載人物

**小沢 誠一（加藤 春夫）**（おざわ せいいち（かとう はるお）、生没年未詳）

小沢兼吉の養子。1862 年（文久 2）に浮下代として出仕。1868 年（慶応 4）3 月、三岡八郎（由利公正）付。1871 年（明治 4）以降大蔵省、東京府、教部省勤務。明治 5 年に加藤春夫と改名。明治 10 年に足羽郡角原村の土地を、翌明治 11 年に坂井郡陣ヶ岡の土地を購入して土地開発及び農業に従事。坂井郡三国町汐見に養蚕教習所を設置するなど、娘婿の加藤恒蔵とともに明治期の養蚕業を指導。明治 31 年に養蚕の指導書である『養蚕の手綱』を著す（国会図書館デジタルコレクション）。

**清水 文蔵（河部 円）**（しみず ぶんぞう（かわべ まどか）、生没年未詳）

吉江定右衛門の子。1857 年（安政 4）藩校明道館の算科局乗除師。1861 年（文久元）算学修行のため上京。1863 年（文久 3）4 月、福井藩が購入した洋式汽船「黒竜丸」を長崎で受け取るため、藩所有の洋式帆船「一番丸」に諸士とともに乗り組む。同年 6 月測量方となる。その後、検地方、会計寮権少属などを歴任。1870 年（明治 3）5 月数学助教となり、以降数学教育に従事。1873 年、岐阜県師範学校の前身の師範研習学校の初代校長となる。1877 年『筆算階梯』を編む（国会図書館デジタルコレクション）。

**脇谷 又太郎**（わきや またたろう、生没年未詳）

「新番格以下」に記載される福井藩士としては珍しく、江戸時代初期の慶長年間からの記載がある 2 家のうちの 1 家（もう 1 家は中村太兵衛家）。脇谷又太郎は 1602 年（慶長 7）御作事方手代書役となり、1624 年（寛永元）に引退。以後明治維新时期まで、脇谷家の歴代 11 名は卒の家格を保った。

#### 3 刊行計画

『福井藩士履歴 1～6』（既刊）、『福井藩士履歴 7 子弟輩』（既刊）

『福井藩士履歴 8 新番格以下 1 イ～リ』（既刊）

『福井藩士履歴 9 新番格以下 2 ヲ～ヨ』（今年度刊行）

『福井藩士履歴 10～13 新番格以下 3～6』（来年度以降刊行の予定）

#### 4 配布方法等

県内図書館、都道府県立図書館・公文書館等へ令和 3 年 3 月中に配付。  
令和 3 年 3 月 31 日（水）以降、希望者には文書館閲覧室において配布。

#### 5 判および発行部数

A4 判（本文 180 頁） 印刷部数 1000 部